

主な未侵入病害虫の解説

ウスグロミバエ

学名: *Anastrepha serpentina* (Wiedemann)

英名: dark fruit fly

*Anastrepha*属ミバエは、中南米を中心に多くの種が生息しており、本種は本属の模式標本になった種である。幼虫は熟した果実に食入し、有用な果実に大きな被害を与えており、中米においてはメキシコミバエやニシインドミバエに次いで経済的重要度の高いミバエにランクされている。

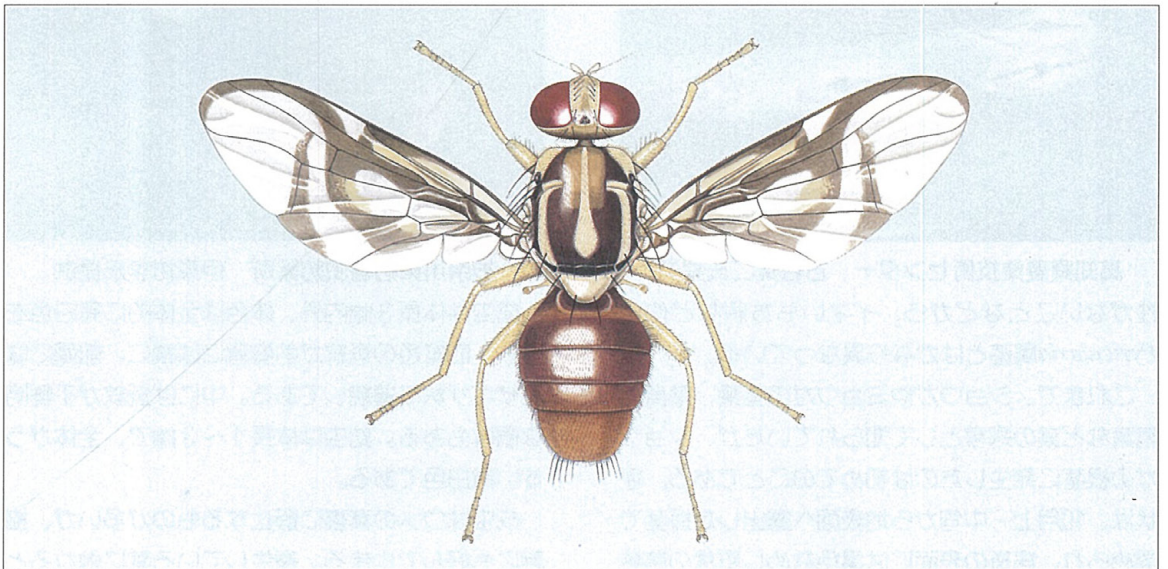
分布 南北アメリカ、西インド諸島

寄主 オレンジ、グレープフルーツ、サボジラ、マンゴウ、カイニット、リンゴ、モモ、パンジロ

との識別は比較的容易である。

幼虫はいわゆるウジ状で、体色は淡黄色、3齢幼虫の体長は9～10mmである。口部後方の髯の数は8～12、胸部の前気門の瘤数は13～18である。肛門瘤は他種と比較して大きい。後気門周辺の剛毛数は背側及び腹側で6～9本、側方で4～6本で、剛毛の長さは比較的短く、先方約1/3で枝分かれする。

生態 卵は果実の表皮下に産下され、ふ化した幼虫は果肉内で成長し、成熟すると果実から脱出して土壌中で蛹化する。25℃における各態の発育期間は卵4.2日、幼虫15.2日、蛹16.2日、成虫の産卵前期間は15日である。1雌1回当たりの産卵数は



ウ、バンレイシなど

形態 成虫はやや大型のミバエで、体色は暗褐色を呈しており、胸部背面に黄色の3本の縦帯がある。翅長は7～8.5mm、翅の紋様は暗褐色で、S字型の主紋と前縁紋は広く合一し、*Anastrepha*属の多くの種に見られる逆V字紋は不完全である。雌の産卵管鞘は長さ3～3.9mmで、産卵管の長さは2.8～3.7mmである。本種は同属の他種よりも体色が薄黒いことが英名の由来となっており、翅の紋様、産卵管先端部の形状などが異なるため、他種

通常4～12個で、約1.5か月に600個の卵を産む能力がある。

被害 幼虫が果実内部を食害することによって起こる。特にアカテツ科の果実を好み、未熟果より熟果のほうに被害が多く発生する。

防除法 他の*Anastrepha*属ミバエ類と同様に、毒餌剤散布が最も有効と考えられる。また、被害回避のため、果実の成熟前に収穫し、その後追熟させることもある。

ブドウオオハリセンチュウ

学名: *Xiphinema index* Thorne et Allen

英名: California dagger nematode

本種は、1950年に米国の加州でイチジクの根から発見されたブドウをはじめとする果樹類を加害する大型の外部寄生線虫である。特にブドウファンリーフウイルス(GFV)の媒介線虫として知られている。

分布 米国、ヨーロッパ、旧ソ連、中東、インドネシア、チリ、オーストラリアなど

寄主 ブドウ、クルミ、イチジク、ダイダイ、ブナ、ソケイ、ポプラ、バラ科植物などの地下部

形態 成虫は雌雄ともに細長く、体長3～4mmで、植物に寄生する線虫の中では大型である。頭部は殆どくびれがなく、口針は約0.2mmと長く、基部に鋸がある。頭^{ツバ}の先から約0.1mmのところ^{ツバ}に口針導環を持っている。雌の陰門は体の中央よりやや前方で、頭^{ツバ}の先から38～40%の位置にあり、生殖器官は1対の生殖腺が陰門を中心に体の前後に伸び、双方に卵巣がある。尾端の腹側には短い指状の突出部がある。雄は希に検出される。

生態 根に口針を突き刺して、養分を吸収する外部寄生線虫である。寄主植物の中ではブドウでよく増殖し被害も大きく、根の先端を加害した場合にはゴールを形成する。畑では1年中検出され、特に夏期に多い。本線虫の成虫は寄主植物がなくても9～10か月間生存し、ウイルス保毒の線虫は保毒していないものより長命である。ウイルスの伝搬は、地温が13～24℃において可能である。

被害 加害された根の先端部分は、ネクロシスを伴ったゴールが形成され、根の伸長が停止し、養水分の吸収が著しく阻害される。また、ウイルスを保毒した線虫が根を加害すると、そこからウイルスが伝搬され、被害をより一層大きくする複合感染を引き起こす場合もある。ウイルスに罹病したブドウの地上部の被害症状は、葉の萎ちようや奇形が見られ、激しい時には植物全体が衰弱し、枯死状態になる。

防除法 耕種的には、寄主でない植物を少なくとも6～7年間栽培する。化学的には、植付け前のクロルピクリンやD-D剤など殺線虫剤の施用が効果的である。

